

平面の 1 次変換と行列式の意味

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

線形代数☆演習 I L28(2024-07-17 Wed)

最終更新: Time-stamp: "2024-07-18 Thu 15:42 JST hig"

今日の目標

- 2 次の行列式で平行四辺形の符号付き面積が求められる
- 2 次の行列式が符号付き面積拡大率であることを説明できる
- 2 次の行列式の性質を図形的に説明できる



ここまで来たよ

27 数式処理 — Maple

28 平面の 1 次変換と行列式の意味

- 1 次変換と行列
- 行列式の性質の図形的説明

1 次変換 加藤 線形代数 p.7 と行列 (L07)

定義 (1 次変換, 線形変換)

\mathbb{R}^2 の変換で,

$$f : \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

の形のものを (2 次元の) **1 次変換**, **線形変換** という.

加藤 線形代数 例題 2(p.9), mobius K0.2.10, teamL07-1

写像 $f : X \rightarrow Y$.

$x \in X, y \in Y$.

$U \subset X, V \subset Y$.

のとき,

$f(x) = y$ を言う言葉

- f による x の像は y
- f は x を y に写す
- x は f で y に写される
- x は f で y に写る

$f(U) = \{y | \exists x \in U \text{ s.t. } f(x) = y\} = V$ を言う言葉

- f による U の像は V
- f は U を V に写す
- U は f で V に写される
- U は f で V に写る

L28-Q1

Quiz(1 次変換の像と逆像)

行列 $A = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 5 \end{bmatrix}$ で表される \mathbb{R}^2 の 1 次変換を考える.

- ① $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \end{bmatrix}$ の, f による像を求めよう.
- ② f による像が $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \end{bmatrix}$ となるような $\mathbf{b} \in \mathbb{R}^2$ を求めよう.

平面内の直線のパラメタ表示 加藤 線形代数 p.183 (L04)

c を通り $a(\neq 0)$ に平行な直線のパラメタ表示 加藤 線形代数 p.183

$$x - c = at$$

$$\text{すなわち } x = at + c \quad (t \in \mathbb{R} \text{ はパラメタ})$$

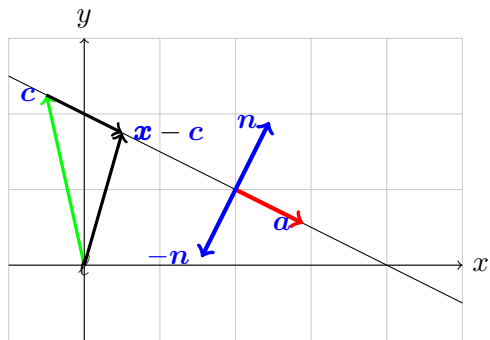
a を直線の接(線)ベクトルという。

理由

- チェック 1 c を通る
- チェック 2 a に平行である

$x = \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$, $a = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix}$, $c = \begin{bmatrix} c_1 \\ c_2 \end{bmatrix}$ として成分で書くと,

$$\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix} t + \begin{bmatrix} c_1 \\ c_2 \end{bmatrix}.$$



GeoGebra(動的幾何ソフトウェア,Web アプリ)

平面内の直線のパラメタ表示

<https://www.geogebra.org/m/skj88vSN>



パラメタ表示された直線の像

$\boldsymbol{x} = \boldsymbol{a}t + \boldsymbol{c}$ ($t \in \mathbb{R}$) とパラメタ表示される直線の、行列 A で表される 1 次変換 f による像は? (\boldsymbol{a} 接ベクトル, \boldsymbol{c} 直線上の点)

移動前の点 \boldsymbol{x} が上のパラメタ表示で書ける.

移動後の点 $\boldsymbol{x}' = A\boldsymbol{x}$. A が正則行列なら、**左から** A^{-1} をかけて $A^{-1}\boldsymbol{x}' = \boldsymbol{x}$.

これをパラメタ表示に代入して、 $A^{-1}\boldsymbol{x}' = \boldsymbol{a}t + \boldsymbol{c}$.

両辺に**左から** A をかけて、 $\boldsymbol{x} = (A\boldsymbol{a})t + (A\boldsymbol{c})$ ($t \in \mathbb{R}$).

命題 (直線の 1 次変換による像のパラメタ表示)

直線 $\boldsymbol{x} = \boldsymbol{a}t + \boldsymbol{c}$ の、行列 A の表す 1 次変換による像のパラメタ表示は

$$\boldsymbol{x} = (A\boldsymbol{a})t + (A\boldsymbol{c}) \quad (t \in \mathbb{R})$$

$A\boldsymbol{a} \neq \mathbf{0}$ のとき、これは直線.

A が正則のとき、**1 次変換で直線は直線に写る**

接ベクトル \boldsymbol{a} は $A\boldsymbol{a}$ に写る.

「通る点」 \boldsymbol{c} は $A\boldsymbol{c}$ に写る.

L28-Q2

Quiz(パラメタ表示された直線の 1 次変換による像)

パラメタ表示

$$\boldsymbol{x} = \begin{bmatrix} 2 \\ -3 \end{bmatrix} t + \begin{bmatrix} 0 \\ 3 \end{bmatrix}, \quad t \in \mathbb{R}$$

をもつ \mathbb{R}^2 の直線 l と、行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 3 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$ で表される \mathbb{R}^2 の 1 次変換 f を考える.

- ① f による l の像のパラメタ表示を求めよう.
- ② f で l に写る点全体の集合を求めよう.

正方形・平行四辺形の像

\mathbb{R}^2 の部分集合

$$\begin{aligned} S &= \left\{ \begin{bmatrix} s \\ t \end{bmatrix} \mid 0 \leq s \leq 1, 0 \leq t \leq 1, s, t \in \mathbb{R} \right\} \\ &= \left\{ \mathbf{e}_1 s + \mathbf{e}_2 t \mid 0 \leq s \leq 1, 0 \leq t \leq 1, s, t \in \mathbb{R} \right\} \end{aligned}$$

は, $\mathbf{0} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$, $\mathbf{e}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$, $\mathbf{e}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$, $\mathbf{e}_1 + \mathbf{e}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ を 4 頂点とする正方形.

正方形の像

正則行列 A で表される 1 次変換 f による, 正方形 S の像は?

$$\begin{aligned} f(S) &= \{A(\mathbf{e}_1 s + \mathbf{e}_2 t) \mid 0 \leq s \leq 1, 0 \leq t \leq 1, s, t \in \mathbb{R}\} \\ &= \{A\mathbf{e}_1 s + A\mathbf{e}_2 t \mid 0 \leq s \leq 1, 0 \leq t \leq 1, s, t \in \mathbb{R}\} \end{aligned}$$

これは, $\mathbf{0}, A\mathbf{e}_1, A\mathbf{e}_2, A\mathbf{e}_1 + A\mathbf{e}_2$ を 4 頂点とする平行四辺形 ($A\mathbf{e}_1$ と $A\mathbf{e}_2$ が張る平行四辺形)

実は, 平行四辺形の像も平行四辺形

実は A が正則行列であるなら $A\mathbf{e}_1, A\mathbf{e}_2$ は平行にならない (正方形はつぶれない). A が正則でないなら正方形は直線や 1 点につぶれる

ここまで来たよ

27 数式処理 — Maple

28 平面の 1 次変換と行列式の意味

- 1 次変換と行列
- 行列式の性質の図形的説明

2 次の行列式と平行四辺形の面積

加藤 線形代数 なし 2 次正方行列 A , $\mathbf{x}, \mathbf{x}' \in \mathbb{R}^2$

$$\mathbf{x}' = A\mathbf{x}$$

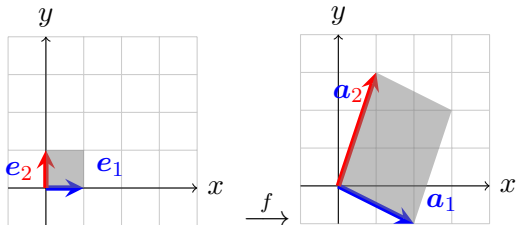
$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

1 次変換 $f(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$ は, \mathbf{x} を $A\mathbf{x}$ に写す.

例 $A = [\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2] = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 3 \end{bmatrix}$.

ベクトル $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2$ は, ベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$ に写る.

A が正則なとき, 左図の正方形は, $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$ を 2 辺とする平行四辺形に写る.



$\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$ を 2 辺とする平行四辺形の面積は?

$$\begin{aligned} |\mathbf{a}_1| |\mathbf{a}_2| \sin \theta &= \sqrt{|\mathbf{a}_1|^2 |\mathbf{a}_2|^2 (1 - \cos^2 \theta)} \\ &= \sqrt{(a_{11}^2 + a_{21}^2)(a_{12}^2 + a_{22}^2) - (a_{11}a_{21} + a_{12}a_{22})^2} \\ &= |a_{11}a_{22} - a_{12}a_{21}| = |\det A| = 7. \end{aligned}$$

\mathbb{R}^2 で, $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$ を 2 辺とする平行四辺形の面積は, $\det(A) = \det[\mathbf{a}_1 \mathbf{a}_2]$.

上の例は, 正方形 (面積 $\det[\mathbf{e}_1 \mathbf{e}_2] = 1$) が, 1 次変換 f によって面積 $|\det(A)|$ 倍に拡大された, と解釈できる.

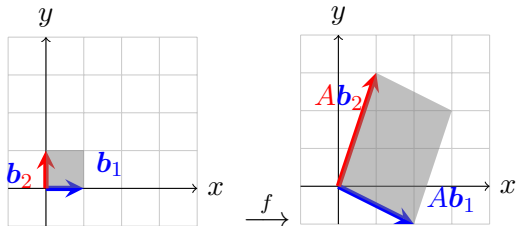
面積拡大率

$b_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 0 \end{bmatrix}, b_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$, ∴ 正方形の面積は $\det [b_1 b_2] = 4$.

Ab_1, Ab_2 を 2 辺とする平行四辺形の面積は

$$\det [Ab_1 Ab_2] = \det(AB) = \det A \det B.$$

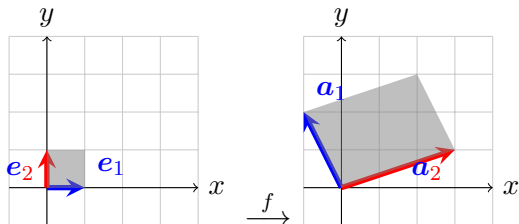
正方形と比べて $\det A$ 倍.



$\det A$ は、平行四辺形が写されたときの面積拡大率 mobius L28

平行四辺形が裏返しになるとき

例: $A = [a_1 \ a_2] = \begin{bmatrix} -1 & 3 \\ 2 & 1 \end{bmatrix}$.



f の拡大率は $\det A = -7$.
 平行四辺形が裏返しに写っているとき (a_1, a_2 の時計回りの順番が逆になっているとき), 拡大率 $\det A < 0$.
 符号付き面積が -7 ということもある.

行交代性 ${}^t a_1 \leftrightarrow {}^t a_2$

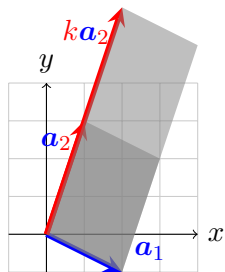
$$\det \begin{bmatrix} {}^t a_1 \\ {}^t a_2 \end{bmatrix} = -\det \begin{bmatrix} {}^t a_2 \\ {}^t a_1 \end{bmatrix}$$

行列式の性質の図形的説明 加藤 線形代数なし

列多重線形性 $k\mathbf{a}_2$

$$\det [\mathbf{a}_1 \ k\mathbf{a}_2] = k \det [\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2]$$

$$\begin{aligned} & \det \begin{bmatrix} 2 & 1 \cdot k \\ -1 & 3 \cdot k \end{bmatrix} \\ &= k \times \det \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 3 \end{bmatrix} \\ &= k \times 7 \end{aligned}$$

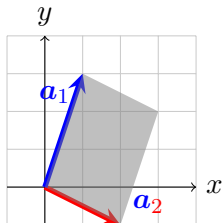


$k = 2$

列交代性 $\mathbf{a}_1 \leftrightarrow \mathbf{a}_2$

$$\det [\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2] = -\det [\mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_1]$$

$$\begin{aligned} & \det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & -1 \end{bmatrix} \\ &= (-1) \times \det \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 3 \end{bmatrix} \\ &= -7 \end{aligned}$$



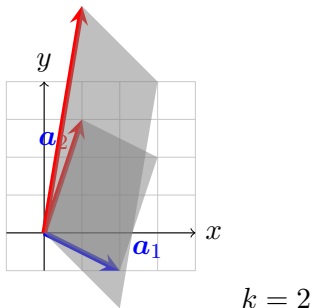
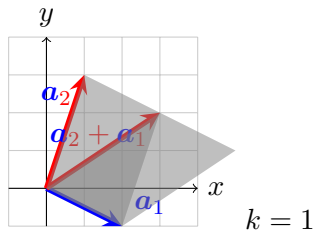
列基本操作 C2 $k\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2$ で不変 行多重線形性

$$\det [\mathbf{a}_1 \ k\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2] = \det [\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2]$$

$$\det \begin{bmatrix} {}^t\mathbf{a}_1 \\ k \ {}^t\mathbf{a}_2 \end{bmatrix} = k \det \begin{bmatrix} {}^t\mathbf{a}_1 \\ {}^t\mathbf{a}_2 \end{bmatrix}$$

$$\det \begin{bmatrix} 2 & 2+1 \\ -1 & -1+3 \end{bmatrix} = 7$$

$$\det \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -1 \cdot k & 3 \cdot k \end{bmatrix} = k \times \det \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 3 \end{bmatrix} = k \times 7$$



積の行列式

$$\det(A_1 A_2) = \det(A_1) \det(A_2)$$

A_1, A_2 の表す 1 次変換をそれぞれ f_1, f_2 とする.

$\det(A_1 A_2)$: 積 $A_1 A_2$ の表す合成変換 $f_1 \circ f_2$ で写したときの面積拡大率

$\det(A_1) \det(A_2)$: f_2 で写したときの面積拡大率, かける, さらに, f_1 で写したときの面積拡大率.

それらは同じはず

逆行列の行列式

A が正則のとき、

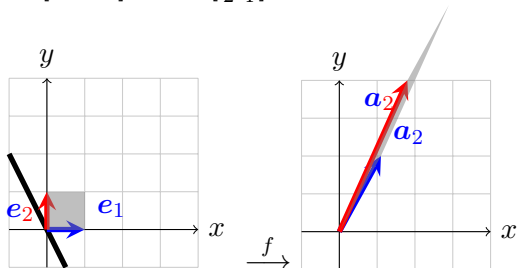
$$\det(A^{-1}) = \det(A)^{-1}$$

A^{-1} の表す逆変換 f^{-1} の面積拡大率は、
 A の表す 1 次変換 f の面積拡大率の逆数
になるはず

写すと平行四辺形がつぶれるとき

a_1 と a_2 が定数倍の関係にあるとき.

$$\det [a_1 \ a_2] = \det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{bmatrix} = 0.$$



面積拡大率=0.

このとき、逆変換は存在しない.

一般に、 A が正則でないとき、 f の面積拡大率=0 であり、逆変換は存在しない.

つぶれるっていうのは、複数の点が同じ点に写されることだから.

L28-Q3

Quiz(1 次変換と行列式)

行列 $A = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 5 \end{bmatrix}$ で表される \mathbb{R}^2 の 1 次変換を考える.

4 頂点 $\mathbf{o} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$, $\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 3 \\ 1 \end{bmatrix}$, $\mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$, $\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2$ で定まる \mathbb{R}^2 上の平行四辺形 P を考える.

- 1 f による直線 $x = 2$ の像を求めよう.
- 2 f により直線 $x = 2$ に写される点の集合を求めよう.
- 3 平行四辺形 P の面積を求めよう.
- 4 f による平行四辺形 P の像は裏返しになるか?
- 5 f による平行四辺形 P の像の面積を求めよう.
- 6 f により平行四辺形 P に写される集合の面積を求めよう.